年頭の御挨拶

明けましておめでとうございます。皆様にはご機嫌よく新年をお迎えのことと存じます。

本年から愈々二十一世紀に入るわけですが、その幕開けを迎えて日本がどの方向へ進むのか見当もつきません。

ただ言えることは、現政府では日本が崩壊する可能性があると予想されることです。それは、何が何でも頭数による多数決で法案を通すべく策略を強行していることで解かります。

現政府の思惑が成功すれば、全ての法案が多数決で決定されます。そうなれば、議会は単に表向きだけの討論を繰り返し、国民を欺く手段にすぎぬものとなります。私達はその犠牲となり手を拱いたままで日々を過ごすというどうしようもない時代が来るものと想像されます。

この様な時代が来ないようにと願わずにはいられません。それには、国民がもっと政治に関心を持ち、明るい希望の持てる日本国にしたいものです。

新年にふさわしくない話になりましたが、皆様方には今後とも御健勝に過ごされますよう願っております。

辰巳会会長　鈴木治雄

全国大会報告

平成十二年度の「辰巳会全国大会」は、今年が辰巳会創立四十周年にあたることから、「鈴木商店」にゆかりの深い「祥龍寺」で開催され、五月晴れの五月十八日(木)午前十一時、三十七名の方が参集されました。

大会に先立ち、祥龍寺木村和尚により、辰巳会物故者の法要が営まれました。奉納されている過去帳には、一、一九二名に及ぶ物故者の方々が記載されております。参加者全員が焼香し、物故された方々のご冥福を祈りました。

大会は、横田幹事長の開会の辞で始まりました。幹事長は、辰巳会が発会したのは昭和三十五年で、第一回の全国大会は「神戸国際ホテル」(現在の神戸国際会館)で一六二名の参加、十周年は昭和四十五年に「奈良依水園」で二四五名の参加、二十周年はここ「祥龍寺」で一三五名の参加で開催されたと「辰巳会」四十周年に至る経過を話されました。

そして、「今回は人数が減っているが、正会員の多くの方が故人となられていることから止むを得ない。」と話され、現在、正会員に登録されているのは八十五名の方であると報告されました。以上のような説明報告に、全員感慨を深くいたしました。

引続き、鈴木会長が「本会が四十年続く中で、鈴木商店現役の方が少なくなりましたが、今後も辰巳会を続けて行きたい」との心強い挨拶がありました。

この後、牧冬彦氏(前神戸商工会議所会頭)の講演に入り、鈴木よね刀自の長者番付けの話、鈴木商店焼き打ちの背景に関する当時のマスコミのいわれなき中傷報道等について話されました。

会食は、祥龍寺本堂前の庭園に席を移して行われました。初夏の日差しを受けながら、そこここに懐旧談の花が咲いたことは言うまでもありません。

歓談のときも過ぎ、安東幹事の閉会の辞で大会は終了しました。最後に本堂を背にして記念写真を撮り、再会を楽しみにしながら散会となりました。

平成十二年五月十八日(木)／於：祥龍寺

平成十二年度　全国大会式次第

平成十二年五月十八日（木）／於：祥　龍　寺

司会進行役　柳田辰巳　本部幹事

一、開　会　の　辞　　横　田　幹事長
一、会　長　挨　拶　　鈴　木　会　長
一、会　務　報　告　　松　下　幹　事
一、ス　ピ　ー　チ　　牧　冬　彦　氏

宴

一、乾　　杯　　立　花　實　氏
一、ス　ピ　ー　チ
一、閉　会　の　辞　　安　東　幹　事

以上

平成十二年度　全国大会出席者名簿（敬称略）

平成十二年五月十八日（木）／於：祥　龍　寺

足立せつ	釜崎とし子	森　泰助	
安東　浄	北尾素子	森　好子	
安東恒子	楠瀬正明	柳田辰巳	
今村三郎	鈴木治雄	横田周作	
大谷淳子	高　明	横田よしこ	
鵜崎淑子	高畑喜代子	河野芳子	
小野晶子	高畑笙子	吉田春江	
小原多喜子	立花　實	山室雅子	
金子孝蔵	月岡定康	鷲尾千鶴子	
金子ソメエ	坂東みどり	金野和夫	
金子貞子	平高輝男	川崎雅子	
金子　峻	牧　冬彦		計　三十七名
東條佳子	松下重男		（敬称略）

大会講演記録

牧　冬　彦

前　神戸商工会議所会頭
㈱神戸製鋼所　元社長、会長

私の辰巳会への参会は、十年近く前でしょうか、神戸で金子直吉翁の五十回忌法要が執り行われたとき以来の久し振りのことです。

つい先日、思いがけないところで「鈴木よね」という文字を発見しました。明石架橋の裾に「孫中山記念館」が再建され、先月オープンしました。その記念館を訪ねた時、「鈴木よね刀自」の名前を見つけたのです。

この建物は、かつては「移情閣」と言い、神戸で商売をされたいた華僑の実業家呉錦堂さんの別荘でした。通称、「六角堂」といわれていますが、実際は八角形をしております。大正時代に孫文が革命の頃に十数回来神され、その度に、神戸の首脳部と話され、この移情閣にも来ておられました。それが明石架橋の建設のために一時疎開し、橋の完成により神戸市が再興し、この度のオープンになったわけです。

この建物の中に、呉錦堂さんのことを紹介する資料として、大正中頃の日本の長者番付が載っている新聞のコピーが展示されていました。この中の長者五番目に鈴木よね刀自の名があり、その数字が一千五百万円でした。呉錦堂さんは三百万円のところにその名がありました。妙なところで鈴木よね刀自の名を発見し、何か因縁めいたものを感じたことでした。

辰巳会が創設されて四十年ということですが、私は縁あって神戸製鋼に勤めることになりましたが、当時は鈴木商店のことは知りませんでした。入社して神戸製鋼がどのような会社かを知ろうとする中で、城山三郎さんの「鼠」を読みました。これを読んで、米騒動で、〈苦しむ民衆を尻目に成り上がりの商人が米の売買を通じて巨利を得た〉という情報は、マスコミの偽りの情報であったことが解かりました。城山さんは作家の感で、金子直吉さんがそのようなことをする人物であったかとの疑問を持たれ、周到な準備のもとに「鼠」を著作されています。

「一犬影に吠ゆえれば万犬声に吠ゆ」（誰かが間違った大声を出せば、それが次々に伝わっていくうちに、真実の話として伝わっていくという意味）という諺があります。当時の日本の社会は、正にそのような状況で酷い状態でした。後年二・二六事件が起り、青年将校が軍部すら打倒しようとする時代であり、農村の疲弊は想像できない状態でありました。結局、社会に何とはなしの憤懣が渦巻いているときに、マスコミの矢が打ち込まれました。その標的に鈴木商店が選ばれたということでした。その意味で、小説「鼠」から、世の中がよく解かったということです。

米騒動の頃の大阪朝日新聞は権威を持った新聞でありますが、この新聞が大々的に鈴木商店の悪業というニュアンスで米騒動を書き立てました。これによって、鈴木よね刀自はじめ金子直吉さんも危険に身

辰巳だより会

本部新年例会報告

平成十二年度　辰巳会
新年例会出席者名簿
平成十二年一月十九日(水)
於・神戸「第一樓」
（敬称略）

安東	浄	鈴木治雄
安東	恒子	須藤欽吾
今村	三郎	坂東みどり
大谷	一二	武藤秋
大谷	淳子	松下重男
小野	晶子	森好子
金子	孝蔵	柳田辰巳
金子	ソメエ	横田周作
金子	貞子	横田よしこ
金子	峻	金野和夫
東條	佳子	川崎雅子
北尾	素子	
楠瀬	正明	

計二十四名

本部　秋季例会

今年の秋の例会は、淡路島の洲本温泉『ホテルニューアワジ』で開催されました。この企画は、好評だった昨年の有馬温泉での、「温泉・会食」を所を変えてということで進められました。

当日はあいにくの曇り空でしたが二十二名の参加を得、昨年同様太陽鉱工㈱松本さんの快適な運転で三宮を出発しました。

淡路島へは勿論『パールブリッジ明石大橋』を渡りました。世界一の海峡吊橋は、何度通ってもその技術に驚き、眺望の素晴らしさに感動します。

橋を渡り切った岩屋エリアで休憩。早速、橋をバックに写真を撮り合う姿、土産物を物色する姿が見られました。

『淡路花博』の終った淡路島は元の静けさを取り戻しており、島の豊かな風景を車窓に見ながら会場の『ホテルニューアワジ』に到着しました。

『ホテルニューアワジ』は、ロケーションはもとより、従業員の礼儀・サービスも満点で気持ちよく過ごすことができました。

先ず温泉に入り寛いだ後、会場へ。柳田幹事の司会で会は進行しました。

会長からは「今日は難しい事は忘れて、大いに楽しんで下さい。辰巳会も人数は減ってきましたが、ご縁のある方の新しい参加も考慮し、会は続けていきます。」との挨拶がありました。

また、今回、参加された太陽鉱工㈱取締役社長鈴木一誠夫妻が立たれ、「辰巳会については不勉強ですが、少しずつ勉強しますのでよろしく」と挨拶され、大きな拍手が湧きました。（鈴木一誠社長が鈴木会長の息であることは言うまでもありません）

平成十二年度　辰巳会
秋季例会出席者名簿
平成十二年十月十日(火)
於・「ホテル・ニューアワジ」
（敬称略）

安東	浄	須藤欽吾
今村	三郎	坂東みどり
岡田	賢一	武藤秋
小野	晶子	松下重男
金子	孝蔵	森好子
金子	ソメエ	柳田辰巳
金子	貞子	吉田春江
金子	峻	山室雅子
楠瀬	正明	金野和夫
鈴木	一誠	川崎雅子
鈴木	治雄	
鈴木	孝子	

計二十二名

その拍手の中、姫路より参加された岡田賢一氏の音頭で乾杯。宴たけなわとなりました。見事な海の幸を前に、あちらこちらで話が弾み、にこやかな笑顔が交わされました。

会は無事終了し、一路三宮への帰途につきました。そして、名残を惜しみながら、再会を期しての散会となりました。

東京支部　新年例会

平成十一年一月二十日(木)
於・築地スエヒロ

辰歳　本年は辰巳会創立四十周年を迎えると、ともに二千年最後の年でもあり意義深い新年例会である。場所は四十年間毎年お世話になった築地スエヒロでおこなわれた。昨日まで天候不良であったが、今朝は晴天となり気分上々が、どういうことか辰巳会例会日は必ず良い天気に恵まれる。本当に有難いことである。

今年は年はじめから、東（東京）は憲法論議で衆参両院に調査会を設置するとか、西（大阪）は自民分裂のままで大阪府知事選のスタート、賑やかな正月である。

今日の参加者は十三名の方が元気溌剌と顔を見せられた。皆様心待ちにしていた速水優様はG7の関係で急遽欠席となられた。大変残念であった。

定刻正午となったので、安東幹事の司会進行で始まる。例によって荒木支部長のスマートで若々しい声で丁重なご挨拶を頂く。そのあと平成十一年度に亡くなられた物故者六名の方のお知らせがあって、しずかに黙朴をささげご冥福を祈る。本年は白寿、米寿の方はおられない旨の報告があった。間をおくことなく順序よく配膳が出来、懇親会にはいる。前に長老の立花実様の乾杯発声で一同サワヤカなお声で唱和、素晴らしい自然体の光景である。

例によって高齢者ぞろいの懐旧談話に花を咲かせる。ときがたつにつれ一段と部屋一杯に快楽が走り、このうえなしの宴会となる。

今席はネビーの方が多いのか、どなたとなしに久久振りに軍歌が飛び出る仕末。流れる中、艦船勤務、如何に弾風、軍艦等、次から次えと威勢よくひびく、最後はおきまりの同期の桜で落着終りとなる。思い出多い六十年一昔の懐古、勇壮そのものである。今の若者にチョッピリ見せてやりたい風景か。時代のかわった今日の平和な時に、小学校近くでの軍歌となれば教育委員会からいちゃもんをつけられる場面かも知れない。

歓談はつきませんが、小汗とおしぼりの出たところで一伏する。その後笑顔の池谷幹事より閉会の辞を頂いて終りとなりました。司会者より本日の記念品はテイジン、ニッパツ様より頂いたことと又日商岩井様よりは過分のご芳志を頂いたことのご披露とお礼の詞があ

辰巳会東京新年例会参加者
平成十一年一月二十日(木)
於・築地スエヒロ
（五十音順・敬称略）

荒木	正雄
安東	浄
移川	京子
池谷	政雄
今村	三郎
請川	耿
木村	隆昭

田代	ヨシコ
立花	實
建部	清也
建部	和子
（長橋	忠男）
西川	明子
（速水	優）
荒木	義弘

参加者十三名

りました。

楽しい時間もすぎお開きとなる。次回例会にはお元気で必ず再会を約しお土産袋を手にして街の中に消えて行かれました。今日の高らかな軍歌は思い出となり、本当にいい新年例会でした。本当に有難うございました。

（記　K）

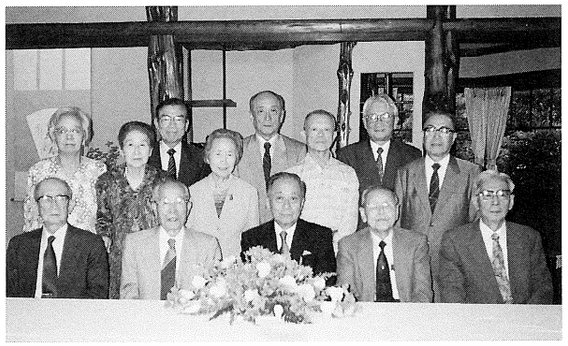
東京支部　春の例会

平成十二年五月三十一日㈬
於・東京芝白金台
「八芳園　壷中庵」

本日は、生憎の曇天模様で梅雨前線上を低気圧が東進するので、東日本は昼過ぎから雨との予報通り、JR山手線目黒駅より会場の白金台の八芳園方向に目黒通りを歩いていると、ポツポツとパラつき始める。早速、携帯の帝人超軽量こうもり傘を差せる。これは軽くて丈夫で重宝である。帝人に感謝をしつつ東進する。この辺りは、大阪の平坦な市街地と異なり地形の変化に富んだ高台で、自然の緑地帯が多く山手とはよく云ったもので、しっとりとした豊な緑で目を楽しませて呉れる。間もなく八芳園の正門に到着する。

八芳園は、江戸時代初期に天下の御意見番で有名な大久保彦左衛門が、老後に神田駿河台よりここに移り住み余生を過ごされ、その後、諸大名の下屋敷として使われ、明治になると、この地は渋沢栄一氏の従兄弟の渋沢喜作氏の住いとなり、やがて大正となり、大阪在住の政財界の巨峰、久原房之助氏が、東京別邸として入手し、敷地を五万平方米に拡張整備され、江戸の自然を今に伝える豊な緑の中、四季折々の変化に富んだ美しさを表わす庭園を造り上げ、都心の唯一の名園として広く知られ、久原氏により「八芳園」と名付けられたとか。

正門は流石に元大名屋敷と云われていただけに、木造瓦葺の古色蒼然とした建造物で、堂々たる門構えは、京、南禅寺の山門を思い出させる様である。通り抜けて、正面に本日の会場である瀟酒な数寄屋造りの料亭、壷中庵を望み、広々とした、白い小砂利を一面に敷き詰められたアプローチを、さくさくと快い音を立てながら、小雨で打ち水をされた様にしっとりと埃も立たず心地良く歩き、清々しい気持ちがする。従業員の方がご丁寧に傘を差し掛けながら、玄関先へ出迎えて下さる。感謝、感謝。



会場ロビーでは皆様方、益々お元気そうでにこやかに談笑されて、楽しい雰囲気を醸し出されていました。案内された辰巳会指定の客室は嘗っての久原氏の屋敷らしい面影を留め、古めかしく重厚にして落ち着きのある和洋折衷の部屋で、床の間には由緒ある掛軸が掛けられ、美しい生け花も格調高い大壷花器に素晴らしく、気品のある華やいだ演出をして呉れる。窓外には白金台の起伏を巧みに生かされた名園と、数多くの由緒ある古木と銘樹の繁みの緑が一杯に広がる風雅な景観が、我々を持て成しているかの様である。

緑濃き八芳園にて辰巳会
三郎

本日の出席された方十三名。全員揃われたところで正午過ぎに記念撮影の後、椅子テーブルの洋式で座り心地良く着席。荒木（義）幹事の司会で始まりました。初めに荒木正雄支部長の「本日のここの建物は皆様の年齢の様で…」とユーモラスなご挨拶で皆様を笑わされて、続いて長老の立花實様の

「皆様のご健康と辰巳会の栄光を祝して」とのご挨拶と発声で乾杯をして宴会に移りました。今の時季、爽やかなビールが一段と旨く、喉を潤し、鳥取の銘酒の福寿海の燗酒にて、乾杯される左利きの方には誠に素晴らしい限りであります。

壷中庵緑愛でつつ杯を干し
三郎

お料理の方も壷中庵の心尽くしの会席料理は、器と云い、盛り付けも美しく、将に芸術作品で箸を着けるのが勿体ない様な気がする。次から次へとタイミング良く彩り鮮やかなお料理が変わり、爽やかな行き届いたサービスの配膳係の方々の着物姿は、庭園の緑とコントラストで美しく、一層素敵な和やかな雰囲気を醸し出されました。左利きであった北海道支部の加地彦太郎元幹事が、若しご健在で同席されていたら、さぞかし、ニコッと笑みを浮かべられ喜ばれたことでありましょう。

爽やかに着物姿で美酒を酌み
三郎

宴、酣となり、あちら、こちらで福寿海を酌み交しながら、なつかしい昔話に花が咲き、鈴木、日商、ニッパツの大先輩の楓英吉様のエピソードとか、神戸ご出身の方の神戸一中、県一とかの神戸に纏るお話とか…　神戸は南側には紺碧の茅渟（チヌ）の海を控え、北側には今頃は鮮やかな緑の美しい再度、摩耶、六甲の連山が聳えて、気候温暖、風光明媚な街で、布引、北野、港の見える丘の諏訪山と、その近くにある神戸海洋気象台等、…所謂、山手界隈とかは誠になつかしい限りであります。

なつかしき緑の六甲遙なり
三郎

話はまだまだ続きましたが、安東浄幹事より「この十八日に神戸、祥龍寺で辰巳会発足四十周年記念法要と全国大会が、盛会裡に執り行われました。」との趣旨の安東節により、皆様にご披露と挨拶があり、間もなく時間となり名残を惜しみつつ閉会となりました。本日の例会にお骨折りの幹事さんよりご丁寧な壷中庵のお目出たい「吉珠中最中」の銘菓を戴き、一同感謝の気持が一杯で次の例会にお元気でお目にかかりましょう、とご再会を約されにこやかにお帰りになられました。今日は、ここ芝の緑一杯の自然に包まれまして皆様方リフレッシュされましたでしょうか。有難うご座居ました。

文字通り芝の緑で辰巳会
三郎
（S・I記）

辰巳会東京春の例会参加者

平成十二年五月三十一日㈬
於・東京　芝　白金台
八芳園　壷中庵
（五十音順・敬称略）

荒木正雄	立花　實	安東　浄	津部清也
池谷政雄	西川明子	今村三郎	森　美子
請川　耿	長橋忠男	木村隆昭	荒木義弘
田代ヨシコ		参加者十三名	

東京支部　秋の例会

平成十二年十月十二日㈭
於・帝国ホテル内「レセゾン」

昨年は春、秋の例会とも都心を離れてバスの旅を楽しみましたが今年は春の例会（目黒・八芳園）につづき都内での昼食宴会。

開業一一〇年を迎える帝国ホテルの内の直営レストラン「レセゾン」でフランス料理をいただきながらの懇親歓談という趣向。

十月中旬というのに残暑を思わせる快晴の一日となりました。翌朝の新聞によると東京は三日連続、今月に入って六日目の夏日だったとのこと。

やむを得ぬ事情で荒木（義）幹事欠席、遠路上京の今村さんを含め参加者十五名。

正午開会だったが十一時頃には早や数名の方がお見えになり一階ロビーで暫し懇談しながら待った後中二階の店に入る。白をベースに南仏をイメージした洒落た雰囲

気。十五名用の丁度よい広さの奥の個室に案内され着席テーブルを囲む。

全員が揃い正午開会、荒木支部長のご挨拶をいただきブルゴーニュのワインが皆に注がれたところで請川さんの発声で乾杯、次々に運ばれてくる豪華な料理をいただきながら楽しい懇談に入り談笑が広がる。ワインの評判も上々。このようなところで高級フランス料理の食事の機会を持ち、ちょっとリッチな気分の一刻だったのではと思います。

話も弾み、ワインも重ね、料理も進むうちデザートが出る頃早や二時、池谷幹事より皆様の健康を祈り次の機会にまた元気で再会をとの閉会のご挨拶をいただき解散となり、店の入口の見事な花をバックに記念写真を撮り、お土産のケーキを手にそれぞれ家路についた。優雅な午餐会を楽しみました。

（N）

辰巳会東京春の例会参加者

平成十二年十月十二日㈭
於・帝国ホテル　レセゾン
（五十音順・敬称略）

荒木正雄　木村隆昭
安東浄　田代ヨシコ
移川中　津部清也
ご同伴　ご同伴
池田宗吉　長橋忠男
池谷政雄　西川明子
今村三郎　森美子
請川耿　参加者十五名

お礼

二〇〇〇年六月二十日
辰巳会
会長
鈴木治雄様

日商岩井株式会社
取締役社長
安武史郎

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り誠に有難うございます。

本日、清酒二本拝受致しました。ご配慮に対し深謝致します。また先日は記念のお品を私達にまでお送り頂き、有難うございました。

本年は辰巳会結成四十周年をお迎えになられたとのこと、物故された方々の記念の法要をはじめ、いろいろお忙しかったことと拝察申し上げます。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

尚、弊社に何かお役に立てることでもありましたら、ご遠慮なくお申し付け頂きますようお願い致します。

先ずは御礼まで　敬具

平成十二年六月二十一日
辰巳会
会長　鈴木治雄様

日塩株式会社
取締役社長
鍋島喜夫

謹啓　初夏の候ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、今般貴会におかれましては、創立四十周年を迎えられました由、誠におめでたく心からお祝い申し上げます。

また、この度はご丁重にも結構なお品をご恵送賜り有難うございました。

先ずは、御礼のご挨拶とともに、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

敬具

平成十二年一月二十七日

辻本嘉明

謹啓　寒さ厳しい日が続きますが、辰巳会のみなさまはお元気でしょうか。お見舞い申し上げます。

早速ですが、過日の小著発刊に際しては、大変お世話になり、有り難うございました。あたたかいお心遣いに感謝致しております。

また本日は、「たつみ」をお送り頂きまして、有り難うございました。拙稿のため大きなスペースを割いて頂いたこと、恐縮致しております。その後、小著は、大倉山の中央図書館や三宮図書館の蔵書に加えられ、係の人の言うのでは、よく読まれているようです。同図書館が発行しているPR用小冊子「KOBE本棚」や同館のパソコンホームページで内容が紹介されたのもプラスしたと思います。

単行本としての書店販売では、期間の面でどうしても制約がありますので、その制限のない文庫化について、今、出版社と交渉中です。うまくいけばいいんだが、と思っています。

お世話のなりっぱなしですが、これからもよろしくお願い致します。

先ずは御礼まで　敬具

辰巳会会員便り

渡辺勝義

拝啓　毎回辰巳会報「たつみ」をお送り下さり厚く御礼申し上げます。連絡遅れ申し訳ありませんが渡辺なかは平成七年十一月二十二日八十二才で死去いたしました。

「たつみ」は編集が見事で大変立派な会報といつも感心して拝見いたしておりました。辰巳会の今後益々のご発展をお祈りいたし取あえずお知らせまで。

敬具

二月一日

助野敦子

立春となりました。

お変りなくお過しの事と存じます。今年辰年〝たつみ〟を祝する美しい画表紙を手にし、なんとなくほほえましく頁を繰り読ませて頂きました。

鈴木治雄会長のお元気そうなお写真を拝見し、私京都のたつみ会に出席しはじめてお目にかかって以来どの位前になるのか分らず日記を年代をもどしつつみましたところ五年半前になる事が分りました。

私もよね刀自と同じ収年で七十六才となりました。五年前とは体力気力も落ちて来ている事を感じます。

辻本嘉明様の大会講演記録を読ませて頂きました。父母と生前共に過した事がなつかしく想い出されます。父がポツポツと話した事を合せよく分る点もあり、そうであったのかと知らなかった部分もありました。二年位前だったか忘れましたが国会中継をきいていましたら鈴木商店を語らずして日本経済は語れないと云った国会議員があり、鈴木商店の名が出たのでびっくりして聞いていた事がございました。一般の人は知らないと思います。八十年も前の事ですから…。西南の役から大久保利道、大隈重信が消えるその後の三井三菱の事大変興味を持ち拝読させて頂きました。

金子直吉翁につきましては、父や母から聞いて居りよく分っています。金子様の蒔いた種が今日の日商となっていると語っていました事がありました。

日本経済新聞は読んで居りません。速水優様二〇世紀日本経済人として、テレビで出ておいでになるのを聞いて居ります。政治、経済については、テレビをみるだけで生々しい事は知る事が出来ませず残念に思っています。これより国会中継をききます。鳩山由紀夫の質疑をききます。

辰巳会平成十年決算書が出ていましたので、心ばかりでございますが送らせて頂きます。

たつみの役員の方々によろしく〝たつみ〟皆様のご健康と会の発展を祈り申し上げます。

二月九日